



平成26年2月3日

## 卓話『フラメンコの歴史と解説』

インターナショナル・ユニバーシティ・スクール 名誉博士  
アントニオ・アロンソスペイン舞踊学校 代表

アントニオ・アロンソ 様



スペインのフランメンコは、どこから来たのでしょうか。スペインにジプシーがたどり着いたのは15世紀の終わりです。9世紀にジプシーたちがインドを発ち、ヨーロッパを遍歴し始めたことは広く知られています。多くの音楽学者はフランメンコへのヒンドゥー音楽の影響を否定していますが、その反対のことを示す事実もあります。例えばフランメンコの1つ、シギリージャという歌は悲しみや恐れといった感情を搔き立てる曲ですが、ヒンドゥー音楽のラーガと呼ばれる旋律も同じように感情を呼び起こすものです。フランメンコの歌手の多くがする鼻にかけた歌い方は彼らに力を与えると考えていますが、同じ役割を持つ歌はヒンドゥーにも存在します。歌の部分の前に歌われる「アイアイアイ」という歌詞はヒンドゥー音楽のアラップという歌詞に似ていて、歌の中で苦悩や絶望といった感情がどのようなメロディに載せて歌われるかを聴く者に思い描かせます。ヒンドゥー音楽もフランメンコも昂ぶる感情を手の動きや顔の表情で表現しますし、両者ともメロディに重きが置かれているため歌詞は簡潔です。

次はジプシー音楽とフランメンコへの進化についてお話しします。

多くの人はジプシーはそもそも独自の音楽を持っていなかったと考えていますが、私は各地のジプシー音楽を一つに結びつける何かが存在したと考えています。ジプシー達はインドから独自の音階を持ちこみました。ユダヤ、アラブ、ジプシーの音楽には共通点がたくさんあります。例えばその音楽は旋律的でハーモニーを多用し

ない、その美しい調べは不安や憂鬱を払拭し病気を治すと考えられていることなどです。ジプシー音楽やアフガニスタン、ペルシャといった国々の音楽、また古代ギリシャやメソポタミアの音楽もインド音楽を土台としており、それらの音楽は全て同じグループに属していると言えます。

アラブ人がスペインに持ち込んだカイタラと呼ばれる四弦のギターは、元々はジプシーが使っていたもので、それにスペイン人が弦を一本加えて五弦のギターにしました。

さて、フランメンコの誕生です。1840年にトリアナ地区でジプシーの踊りが踊られるまで人々はフランメンコについて余りよく知りませんでした。初期は使われていた言葉こそジプシーの言葉カロで、アラブの影響を色濃く受けましたが、そこに少しずつアンダルシアらしい要素が加わってきました。フランメンコはギターで演奏されることでその魅力を増し、限りなくバリエーションを増やしていました。フランメンコとギターの間には、まるでギターはフランメンコのためだけに作られたかのような結びつきがあります。また現代のフランメンコ舞踊では腕の動きより、リズムを取りながら足を打ち鳴らすサパテアドの方に重きが置かれています。

お話がでてきてすごくうれしかったです。ありがとうございました。

